

特集

住民意識調査結果報告

住民意識調査は昭和54年から実施し、今回で16回目となります。この調査は、住民の皆さんの町政に対する評価と今後のまちづくりに対するニーズや意識を把握し、今後の町政運営にあたっての参考にすることを目的としたものです。

18歳以上の男女1,500人を無作為抽出し、735人（49%）から回答をいただきました。

そこで、この結果から主なものを抜き出し、それに基づいた今後のまちづくりについてのべさせていただきます。



○身近な生活環境で「よい面」トップ5

- 1位 自然環境がよい 32.6%
- 2位 公害が少ない 12.4%
- 3位 買い物に便利 10.9%
- 4位 治安がよい 5.9%
- 5位 下水道が整備されている 5.7%

○身近な生活環境で「わるい面」トップ5

- 1位 交通が不便 18.4%
- 2位 医療機関が少ない 13.9%
- 3位 災害に弱い 9.1%
- 4位 買い物に不便 8.9%
- 5位 福祉関連施設が不足している 8.2%

○町が特に力をいれてほしいことトップ5

- 1位 福祉対策 18.8%
- 2位 安全対策 8.8%
- 3位 環境保全対策 8.4%
- 4位 幸田駅前の再開発 8.2%
- 5位 保健衛生対策 7.9%

町長 今後とも住みよいと思われるかたが、より多くなるよう努力してまいります。
特に環境問題は住みよい町の大前提であり、自然環境がよく交通の利便なまちづくりに向け、町民の皆さん、事業所の皆さんと一体となって取り組んでまいります。

Q 幸田町の住み心地は？
「住みやすさを感じる」
「住みやすい」とどちらかといえば住みやすい」という回答が全体で8割を超えました。
また、身近な生活環境でよい面は、1位が「自然環境がよい」で、2位が「公害が少ない」でした。
悪い面は、1位が「交通が不便」で、2位が「医療機関が少ない」でした。

町長 福祉施策として障害者地域活動支援センター建設と「次世代育成支援後期行動計画」の策定をし、福祉のまちづくりに努めます。
また、住民の皆さんの健康意識を高めていただくために今年度から毎年11月1日を新たに「**じつた健康の日**」と定め住民の皆さんの健康維持増進に一層取り組んでまいります。次に安全対策として今年度中に全小中学校に緊急地震速報受信放送設備を設置し、また平成18年度から深溝小学校に学区の防災備蓄倉庫を設置、以降学区毎に一基ずつ整備し23年度までにはすべての小学校に設置、災害に強いまちを目指します。

Q 町が特に力をいれてほしいことは？
「福祉対策」がトップ
前回の調査と同じく「福祉対策」が1位、「安全対策」が2位となりました。

住民意識調査結果報告

○広報紙に望む情報トップ5

- 1位 町の事業計画に関する情報 27.1%
- 2位 町の出来事や身近な話題の情報 24.2%
- 3位 生活に関する情報 17.6%
- 4位 健康に関する情報 8.3%
- 5位 福祉に関する情報 6.7%
- 5位 文化に関する催しや活動の情報 6.7%



町長 広報紙は、町民の皆さんに町政をお知らせする大切な手段です。「町の事業計画」や「町の出来事や身近な話題」などを中心に、正しい情報を分かりやすく提供し、毎月の広報紙を楽しんでいただけるような紙面づくりに心がけます。

Q 広報紙を読んでいますか？
80%が「読んでいる」
 「すべて読んでいる」「主な項目（見出し）は読んでいる」というかたが80%を占めました。
 広報紙に望む情報としては、1位が「町の事業計画に関する情報」、2位が「町の出来事や身近な話題の情報」でした。

○ホームページやケーブルテレビなどの情報サービスによって得たい情報トップ5

- 1位 災害発生時の緊急情報 15.2%
- 2位 救急医療情報 12.0%
- 3位 催し物などの案内情報 11.6%
- 3位 観光・娯楽などのタウン情報 11.6%
- 5位 役場への届出・手続きの情報 9.3%

町長 家庭でのパソコン普及率は8割を超え、7割がインターネットを利用していることから、ホームページやケーブルテレビは広報紙とともに、大切な情報伝達手段の一つであるといえます。
 今後さらに利用者が増えることを期待し、情報内容の充実に積極的に努めてまいります。

Q ホームページやケーブルテレビなどの情報サービスによって得たい情報は？
「災害発生時の緊急情報」
「救急医療情報」
 82%以上の家庭でパソコンを所有しており、70%のかたがインターネットを利用していることが分かりました。その中で得たい情報の1位が「災害発生時の緊急情報」、2位が「救急医療情報」、3位が「催しなどの案内情報」「観光・娯楽などのタウン情報」でした。



幸田町ホームページアドレスは、<http://www.town.kota.lg.jp/>です。
 なお、幸田町ホームページには、**言語検索機能が搭載されていますので、目的の情報を探しやすいです。**

幸田町ホームページに多くのかたが、おとずれています。
ホームページ閲覧件数
 平成19年度
 年間 約498,000件
 月間 約 41,000件
 平成20年度
 年間 約765,000件
 月間 約 64,000件

○環境問題に対し、今後重点的に取り組んでいくべきことトップ5

- 1位 リサイクルの推進やごみの減量化 20.1%
- 2位 太陽熱や廃熱など未利用エネルギーの有効利用 14.6%
- 3位 自然環境・生態系の保全 13.5%
- 4位 生ごみ処理器や太陽光発電等の設置促進と費用助成 11.5%
- 5位 不法投棄の対策強化による美観の保持 10.3%



○少子化対策として取り組んでいくべきことトップ5

- 1位 保育料、教育費の負担軽減 28.7%
- 2位 安心して出産育児ができる母子保健、医療の充実 19.4%
- 3位 保育サービスの充実 13.8%
- 4位 出産費用に対する補助の増額 11.5%
- 5位 安心して遊べる公園や遊び場の整備 8.4%

○高齢者・障害者などが住みよいまちにするにはトップ5

- 1位 道路や公共の建物などの段差をなくし、利用しやすいように整備・改良 41.3%
- 2位 安心して快適に暮らせるような住宅の確保 21.2%
- 3位 趣味や学習などの活動で気軽に利用できる施設の整備充実 14.7%
- 4位 身近でスポーツを楽しめる場の整備充実 6.7%
- 5位 駅舎の整備（バリアフリー化）および公共交通の拡充整備 5.4%

町長 今年4月1日からごみの減量化のためにレジ袋有料化を始め、さらに分別収集の徹底とリサイクルを進めます。また、緑の基本計画を策定し、資源循環型社会形成に取り組み、快適で美しい環境づくりに努めてまいります。

Q 環境問題に対し、今後重点的に取り組んでいくべきことは？
「リサイクルの推進などごみの減量化」がトップ
 1位が「リサイクルの推進やごみの減量化」で、2位が「太陽熱や廃熱など未利用エネルギーの有効利用」、3位が「自然環境・生態系の保全」となりました。

町長 近年、少子化の原因として仕事と育児の両立が挙げられます。そこで、安心して子育てができる環境づくりと児童福祉の向上を目指して、妊婦健診公費負担拡大（7回→14回）、一般不妊治療費助成、地域ぐるみで健やかな子どもを育てる「こんにちは赤ちゃん訪問」事業の実施、子ども医療費無料化継続（中3まで）を行い今後も総合的に子育て支援に取り組んでまいります。

保護者の負担軽減を図るため保育料は昨年度から同時入所の第3子以降は無料としております。また低所得者の保育料も軽減いたしました。

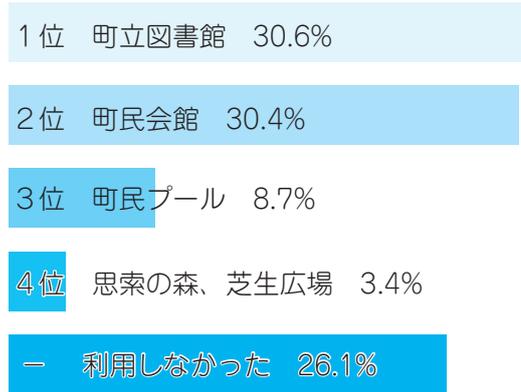
また、小中学校の教育費についても修学旅行費の補助など保護者負担の軽減に努めてまいります。

Q 少子化対策として何をすべきだと思いますか？
「保育料、教育費の負担軽減」
 1位が「保育料、教育費の負担軽減」で、2位が「安心して出産育児ができる母子保健、医療の充実」でした。

町長 高齢化が進むなか、寝たきりや認知症の高齢者などが増加するため、不足する施設の整備を図るとともに、障害者自立支援や介護予防対策を推進し、日常生活用具・補装具給付を実施し、ソフト面におけるサービスの充実に努めてまいります。また、道路や公共施設のバリアフリー化を推進し、高齢者のかたや障害のあるかたが住みやすいまちづくりを目指します。

Q 高齢者・障害者などが住みよいまちにするには？
「道路・建物の段差をなくす」
 1位が「道路や公共の建物などの段差をなくし、利用しやすいように整備・改良」で、2位が「安心して快適に暮らせるような住宅の確保」でした。

○ハッピネス・ヒル・幸田の中で、昨年あなたはどの施設を利用しましたか



○災害に対する備えトップ5



町長 現在ハッピネス・ヒル・幸田は、平成18年4月から幸田町文化振興協会が指定管理者となり運営されています。町民会館では多彩な催しを行い町内外の多くのかたがたに利用されています。プールでは安全安心を第一に、水泳教室や健康増進を目的とした各種講座の充実に努めています。図書館は町内外の新規登録者が年々増加しており、今後は子ども読書活動推進のための読書環境や図書充実などを図ります。指定管理者による改善効果も出ており、今後さらに町民の皆さんに親しまれ、ご利用いただけるよう努力してまいります。

Q ハッピネス・ヒル・幸田の利用状況は？
「より利用しやすい施設に」
 昨年の施設利用状況は、町民会館と図書館を利用されたかたが61%でした。

町長 昨年、幸田町に甚大な被害をもたらした8月未豪雨の記憶から皆さんが身近な備えをされ、災害に対する意識が前回の調査に比べ高くなりました。広田川の改修は国・県に働きかけながら、その整備促進に全力を挙げて取り組んでまいります。また近い将来、東海地震等の発生が予想されており、幸田町も強化地域（東海地震）と推進地域（東南海・南海地震）に指定されており、速やかな対応が求められています。こうした防災意識の高揚に努めてまいります。

Q 災害に対する備えは？
「避難場所の確認」がトップ
 1位が「避難場所の確認」、2位が「保存飲料水、食料品を準備」。3位が「非常用持ち出し袋を用意」でした。

調査にご協力をいただき、ありがとうございました。今回の調査結果は、町ホームページでも閲覧できます。

問合せ 企画政策課情報G（内線344）

貴重なご意見（抜粋）

- ・町内各地区の花いっぱい運動の花の見ごろマップをつくって幸田町を宣伝したらどうでしょうか？
- ・住宅用の太陽光発電で、家にネオンを灯して工口の明るいまちをつくる。
- ・幸田町を舞台にしたテレビドラマか映画を誘致して、みんなに自慢したい。
- ・自然がいっぱいの幸田町を次の世代に残したい。
- ・ウォーキング仲間から幸田町のコースを誉められた。幸田町に住んで良かった。
- ・家庭菜園の野菜を使った家庭料理コンテストを開催して我が家自慢をしたい。
- ・ペットコンテストをして、飼い主のマナー向上をしたらどうでしょうか？
- ・幸田は田んぼがたくさんあってこそ幸田である。山あいの作られていない田んぼを復活したい。
- ・防犯ボランティアで、新しい仲間ができた。人のためになることができうれしい。
- ・引越しをしてきて、子どもも会場で子どもと知り合いになれた。もっと色々参加したい。